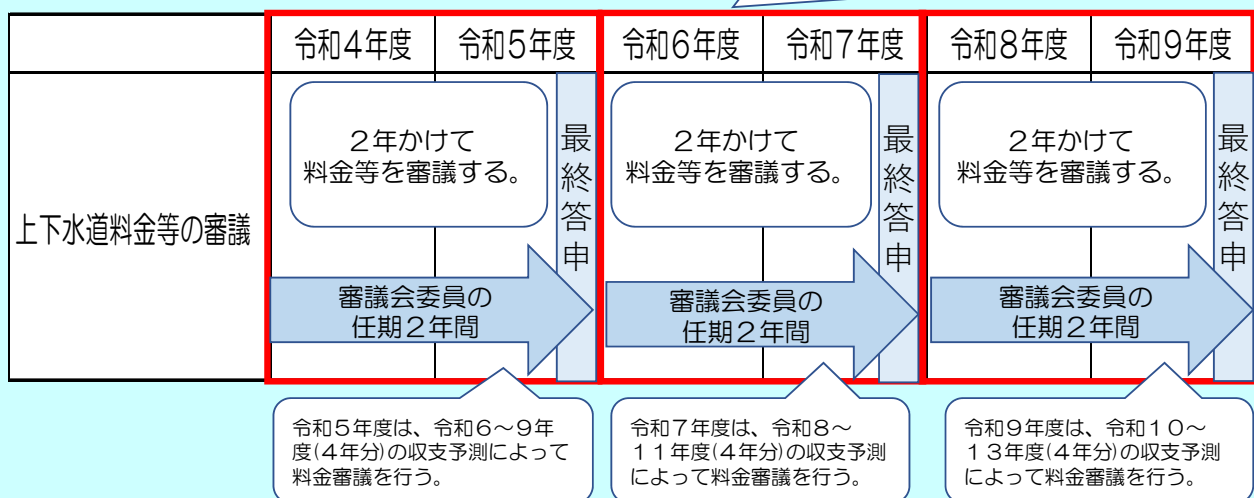


# 水道料金について

1

## 水道料金・下水道使用料等の審議について(その1)

今後4年間の収支予測（料金算定期間4年間）を元に、上下水道料金等の審議を2年ごと（委員の任期ごと）に行う。任期1年目は上下水道料金の現状把握、任期2年目で料金審議を行い、その結果を最終答申に反映する。



2年毎に料金審議することで、毎年見直し(ローリング)している実施・財政計画(4年間)を料金に反映する。

2

# 水道料金・下水道使用料等の審議について(その2)

## 令和4年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
審議会		第1回 上下水道の概要について			第2回 上下水道決算 上下水道料金概要			第3回 令和4年度実施計画・財政計画 による上下水道料金を算定	第4回 中間答申 中間答申(案)について			

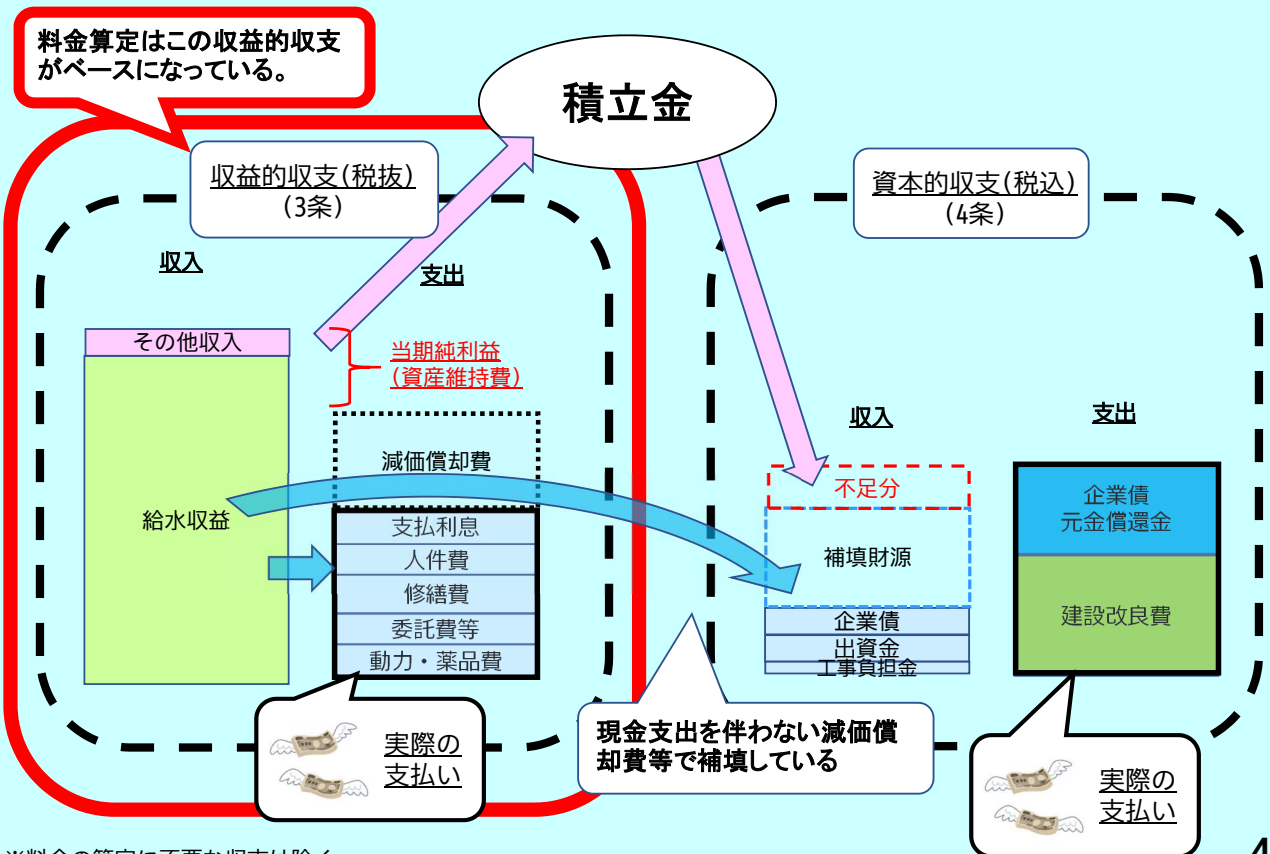
今日は  
ここです

## 令和5年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
審議会		第5回 水道料金について			第6回 下水道使用料について		令和5年度実施計画・財政計画による 上下水道料金の審議	第7回		第8回 答申(案)について	答申	

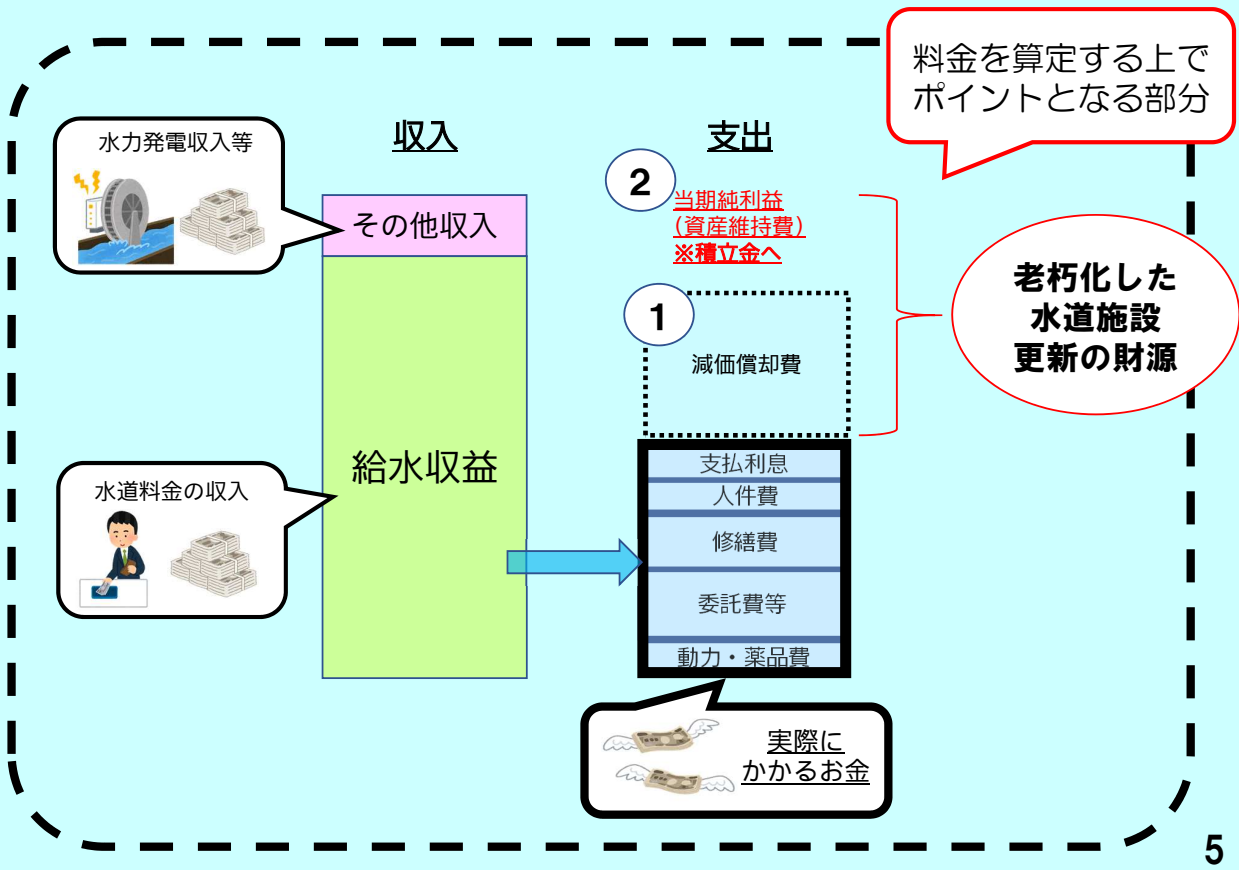
※令和5年度は予定であり、日時や回数は変更する場合があります。  
※料金に係る部分を示しています。

## 水道事業決算 イメージ



※料金の算定に不要な収支は除く

## 収益的収支(税抜) イメージ【3条予算】

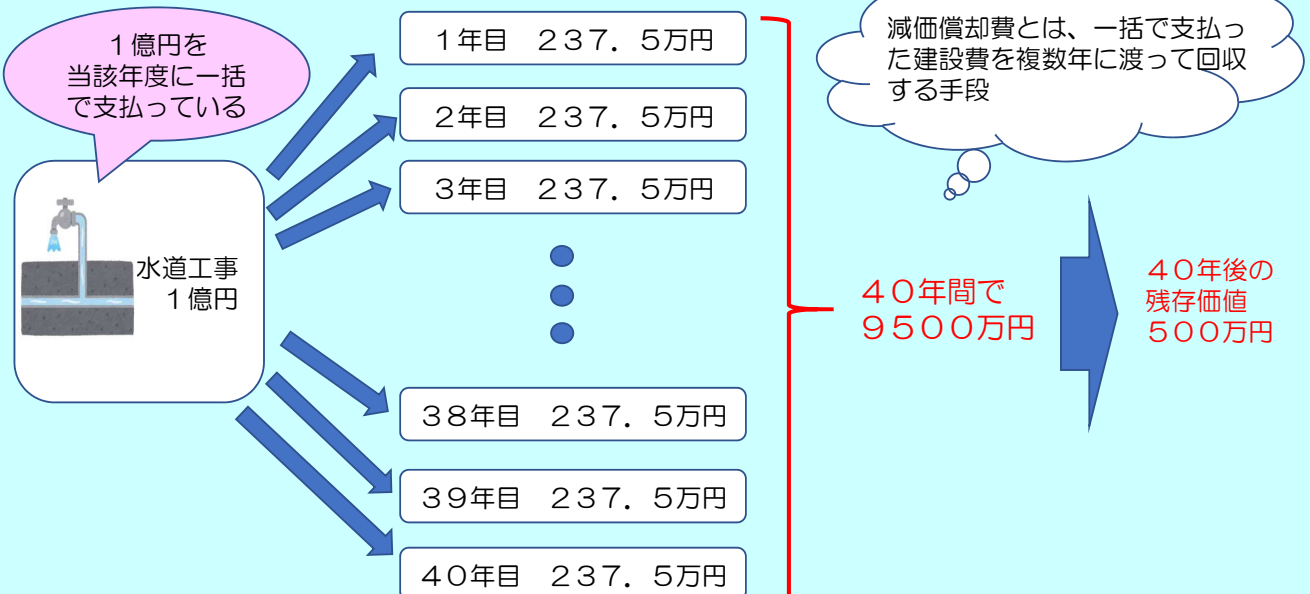


## 老朽化した水道施設更新の財源（その1）

### 1 減価償却費（現金支出がない費用）⇒内部留保金

$$1 \text{ 億円} \times 95\% = 9500 \text{ 万円}$$

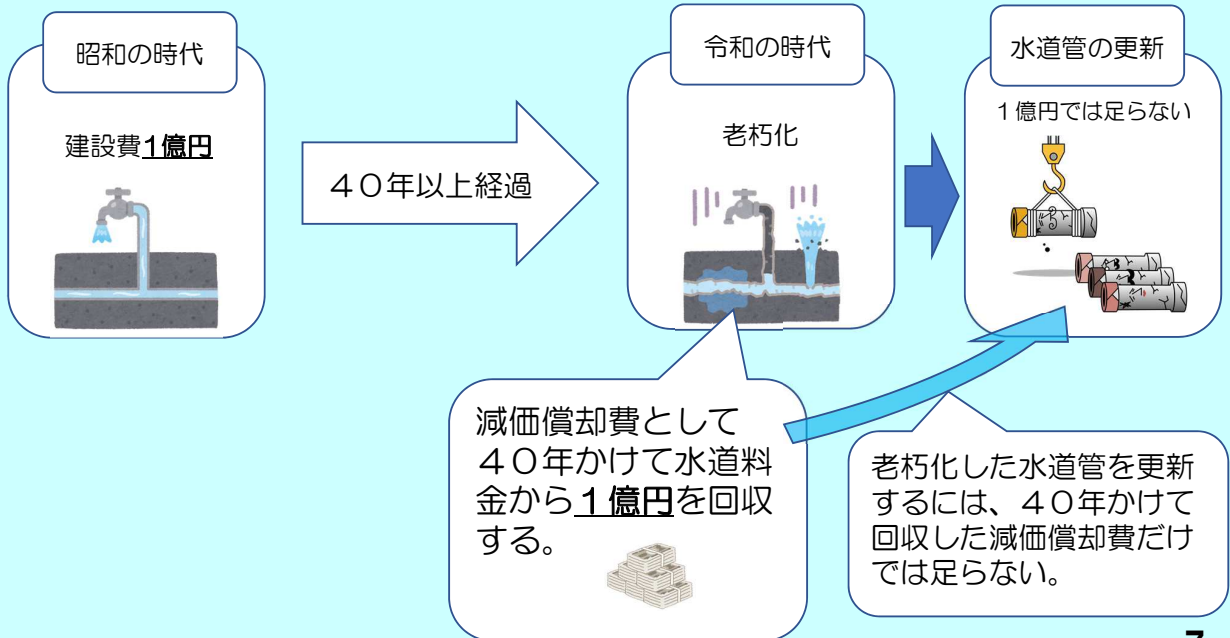
$$9500 \text{ 万円} \div 40 \text{ 年 (法定耐用年数)} = 237.5 \text{ 万円}$$



## 老朽化した水道施設更新の財源（その2）

2

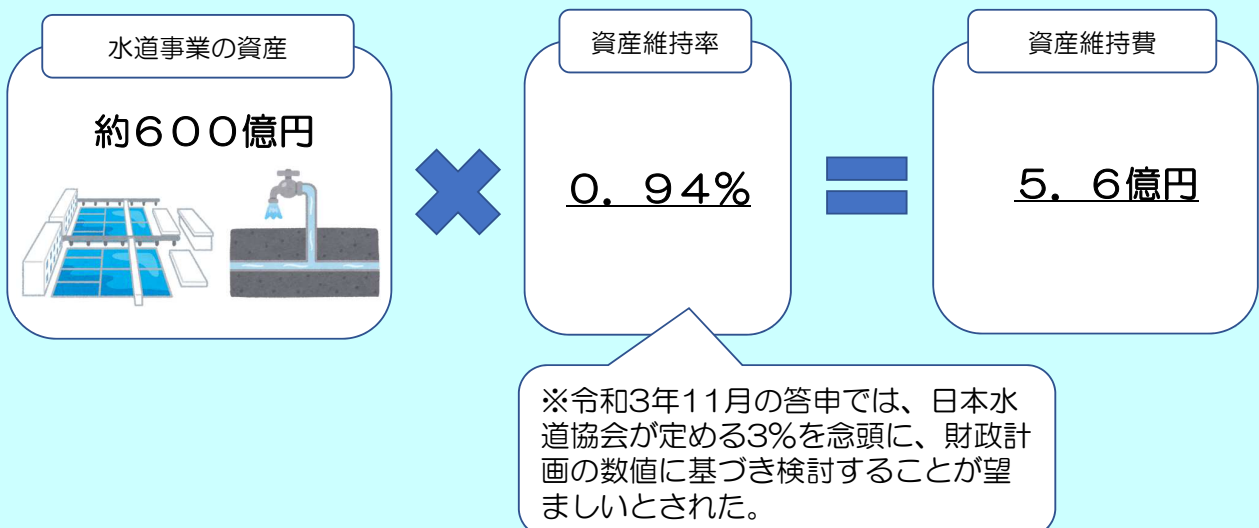
資産維持費（当期純利益）⇒積立金



7

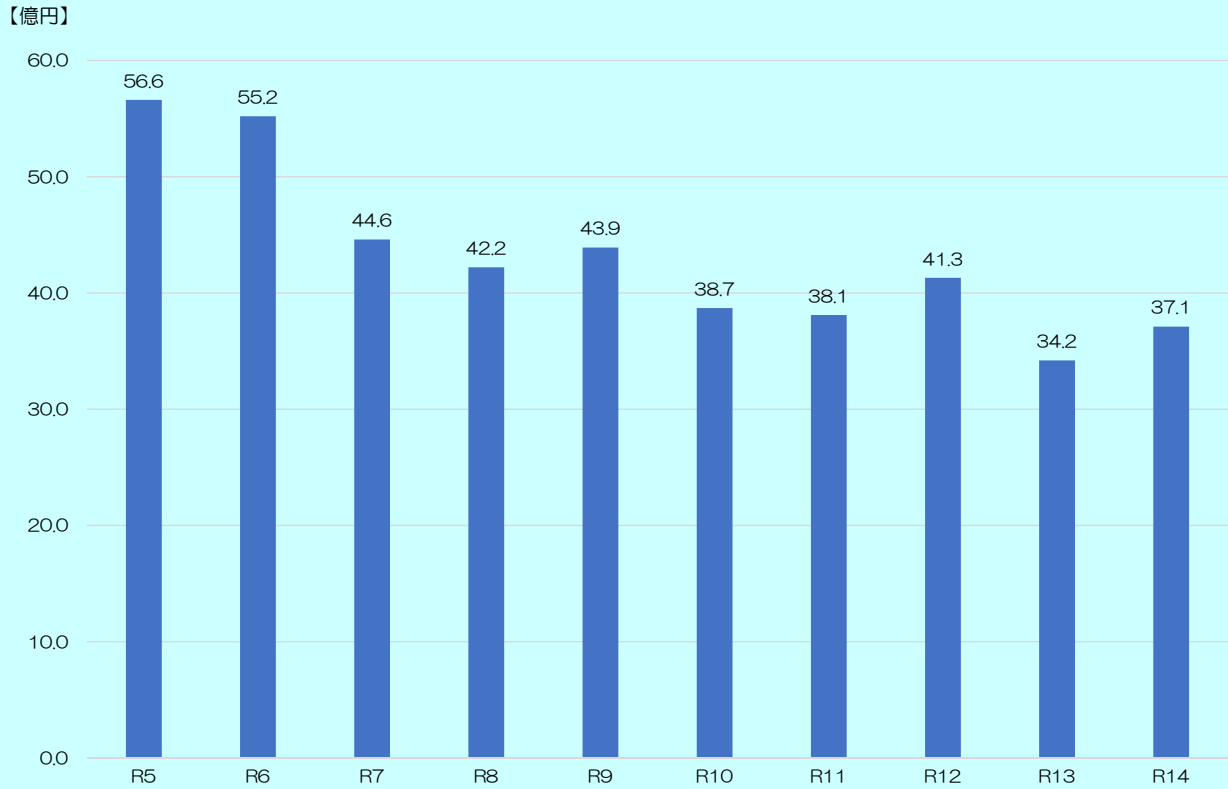
## 老朽化した水道施設更新の財源（その2）

資産維持費の算出方法



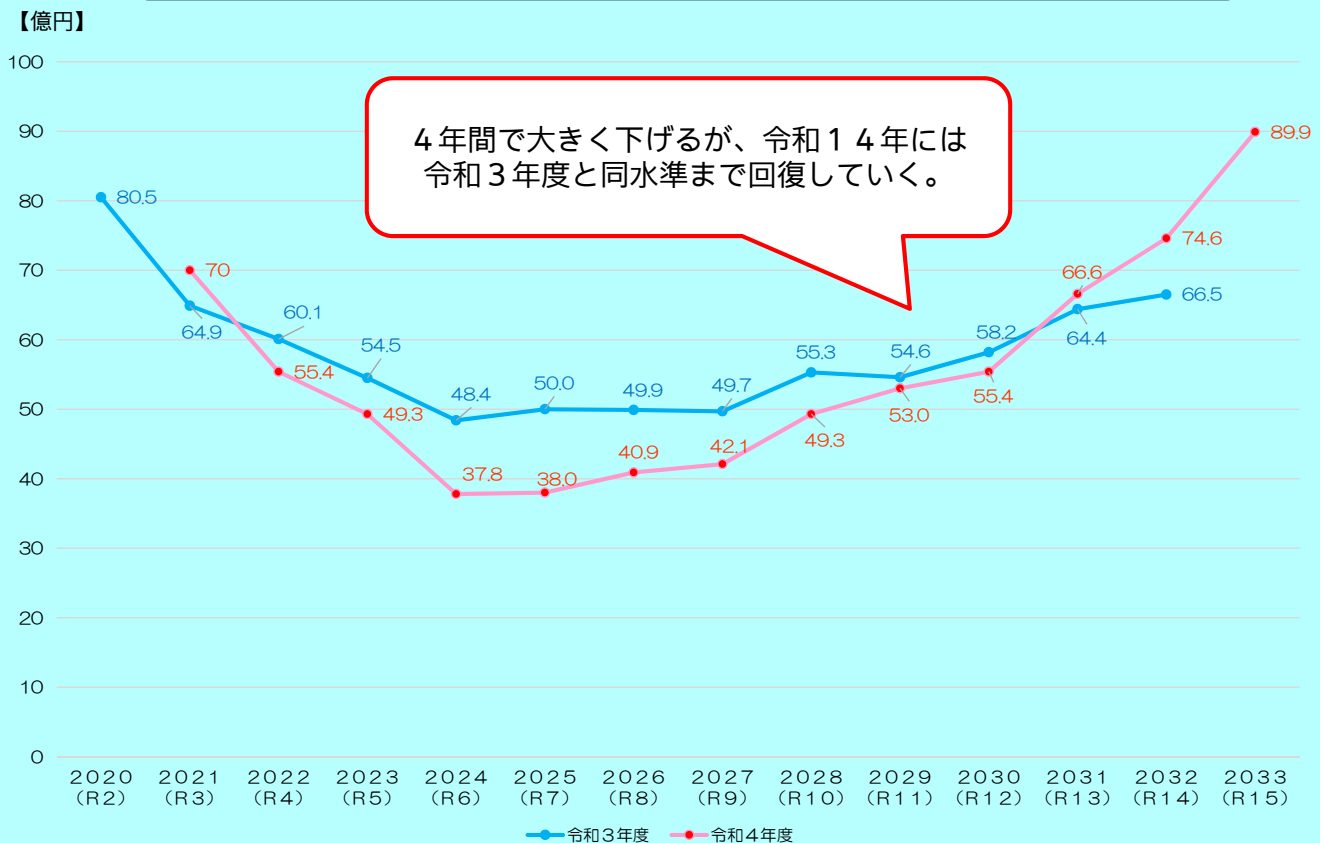
8

## 老朽化した水道施設更新の今後10年間の予定額 (第4次財政計画)



9

## 繰越財源 (積立金等) の推移 【R3、R4比較】



※令和3年度の2020(R2)と令和4年度の2021(R3)の数値は、当該年度の繰越額を控除している。

10

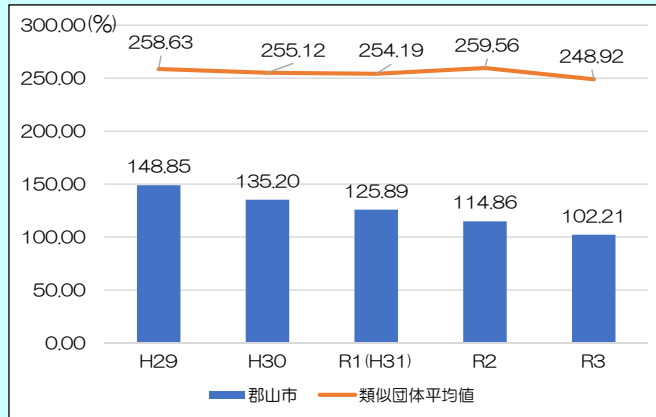
## 老朽化した水道施設更新の財源（その3）

### 3

### 企業債

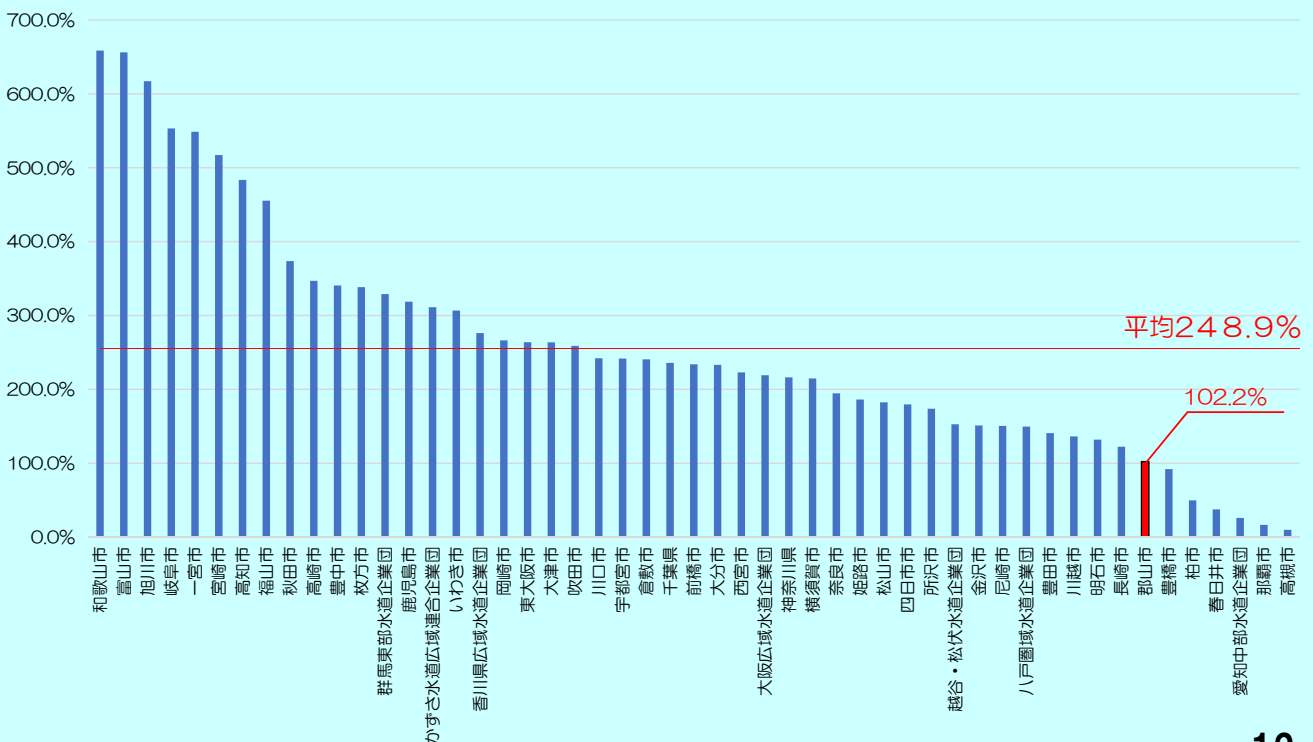
$$\text{企業債残高対給水収益比率} = \frac{\text{企業債現在高}}{\text{給水収益（1年分）}} \times 100\% = \frac{72.1 \text{ 億円}}{70.5 \text{ 億円}} \times 100\% = \underline{102.21\%}$$

企業債残高対給水収益比率（郡山市5年分）

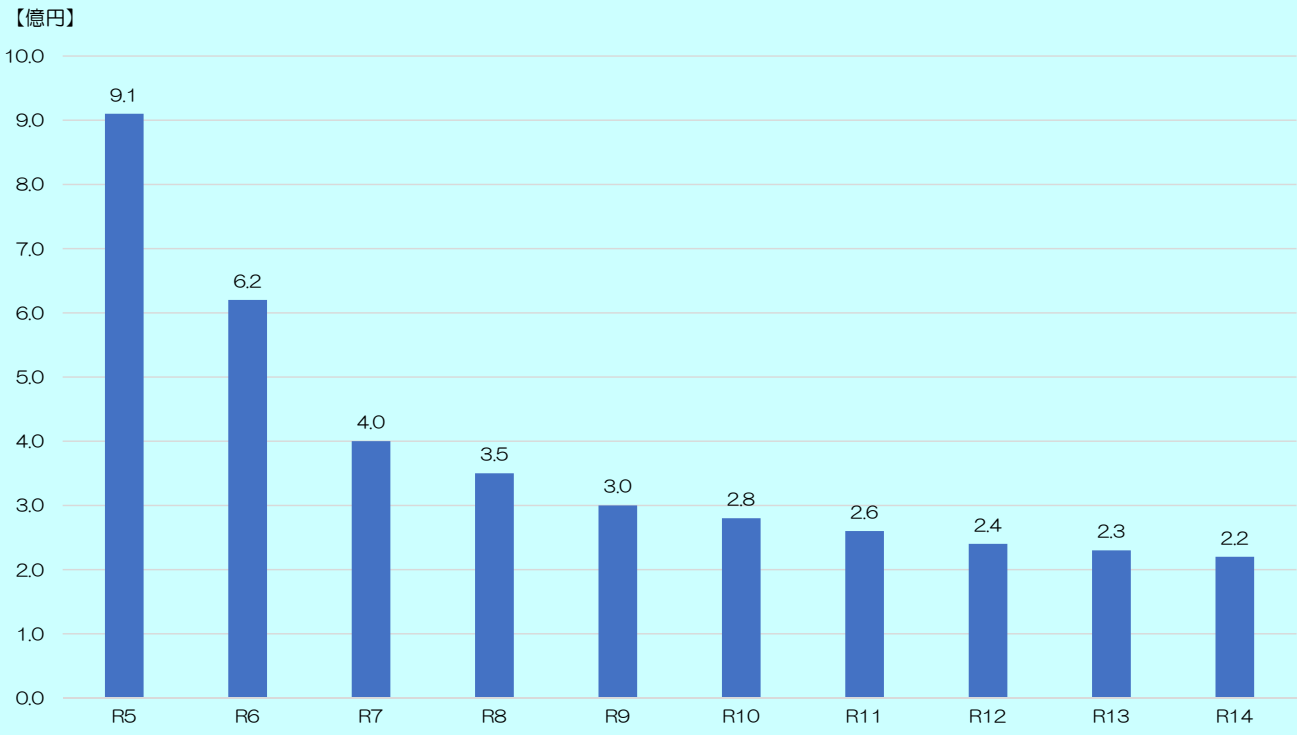


## 企業債残高対給水収益比率(類似団体比較表)

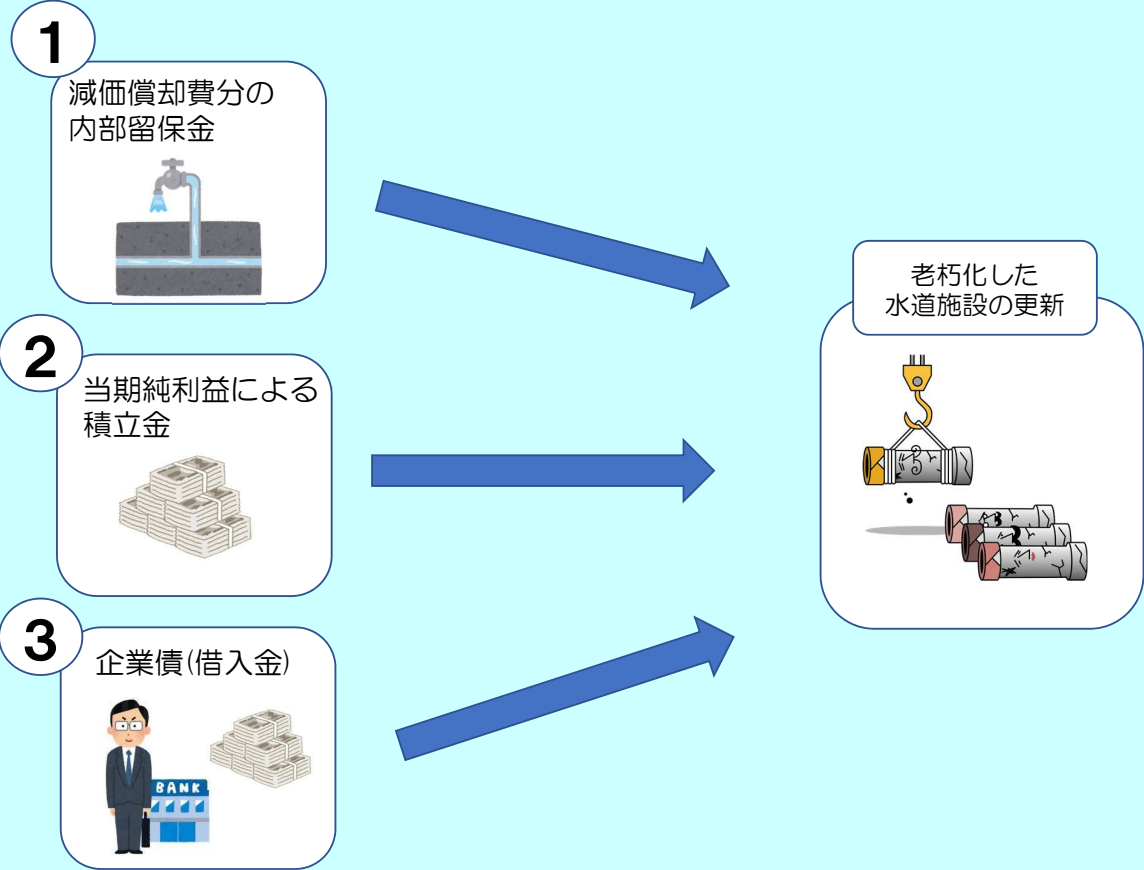
R3決算統計(総務省)参考



# 企業債償還金(借入金返済) 10年間予定額

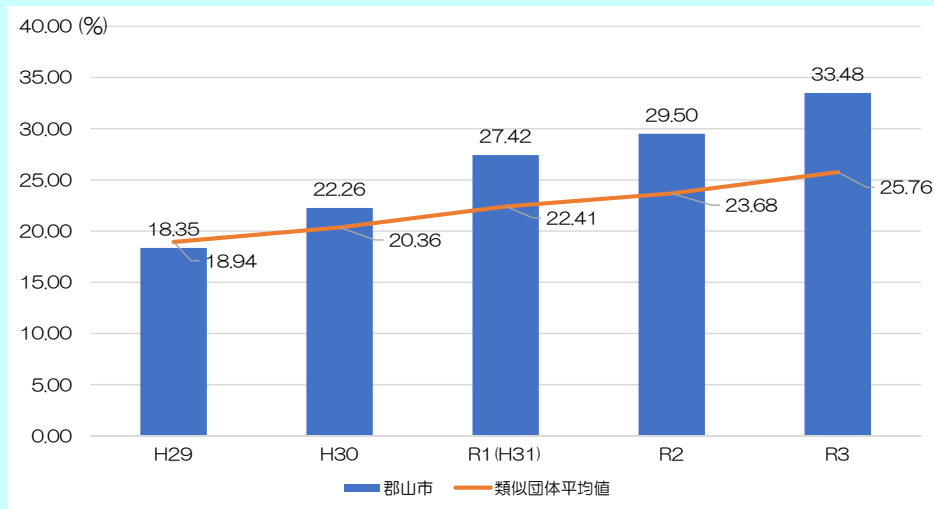


# 老朽化した水道施設更新の財源(まとめ)



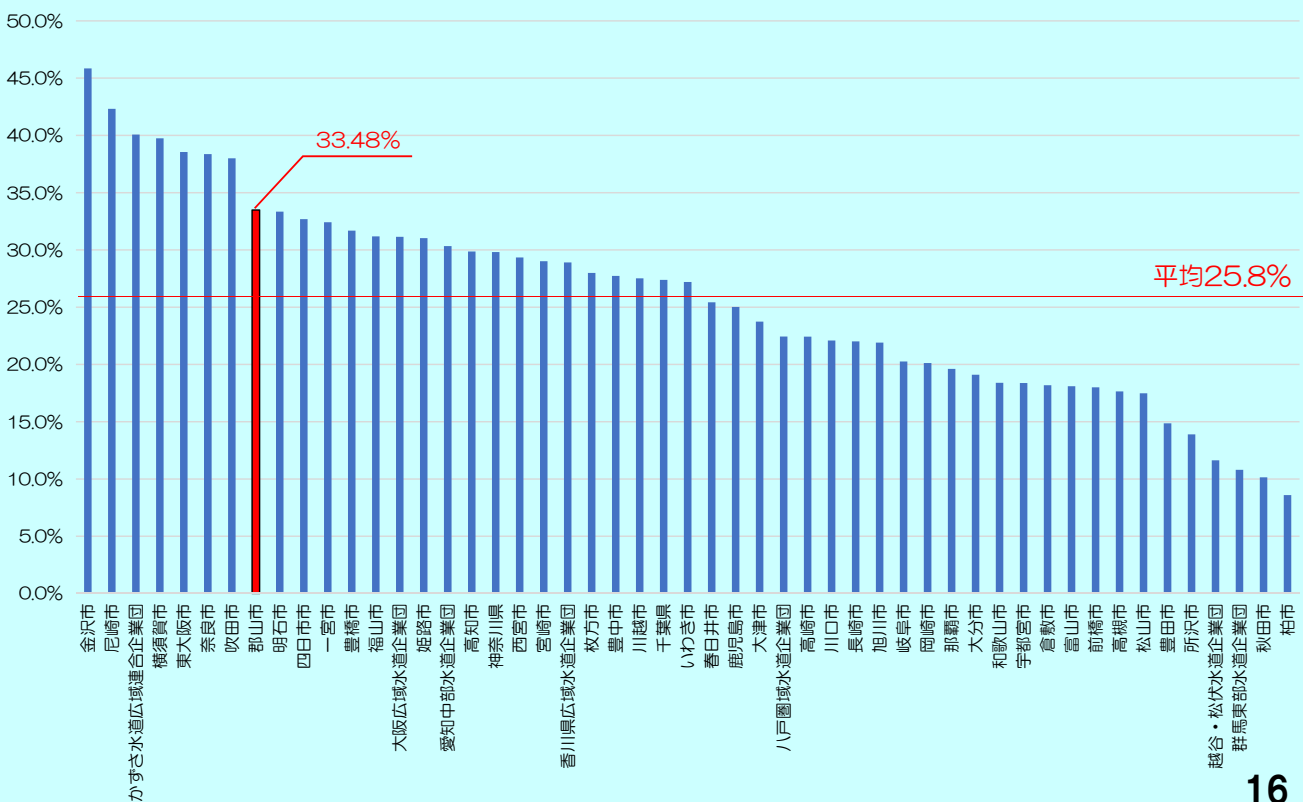
# 管路経年化率

$$\text{管路経年化率} = \frac{\text{法定耐用年数を超えた管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100\% = \frac{608 \text{ km}}{1816 \text{ km}} \times 100\% = \underline{\underline{33.48\%}}$$



# 管路経年化率 (類似団体比較表)

R3決算統計(総務省)参考



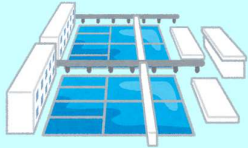


## 水道施設の耐用年数（主な施設）

地方公営企業法施行規則

第14条（固定資産の減価償却の方法）

償却資産のうち有形固定資産の減価償却は、別表第二号に定める種類の区分ごとに定額法又は定率法によって行うものとし、無形固定資産の減価償却は、定額法によって行うものとする。



浄水場 コンクリート構造物

法定耐用年数  
60年



配水管

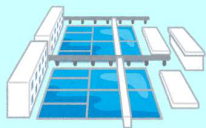
法定耐用年数  
40年



寿命

法定耐用年数と寿命はイコールにはならない。  
各施設ごとの状態によって施設の寿命は異なる。

## 水道施設の更新時期について



浄水場  
コンクリート構造物

水道法等に基づき、目視点検やその他適切な方法を行い、必要に応じてコンクリートのコア抜きによる破壊試験等を行い劣化状況を把握する。

法定耐用年数が過ぎても、予防保全を行いながら、使える施設は可能な限り使用する。

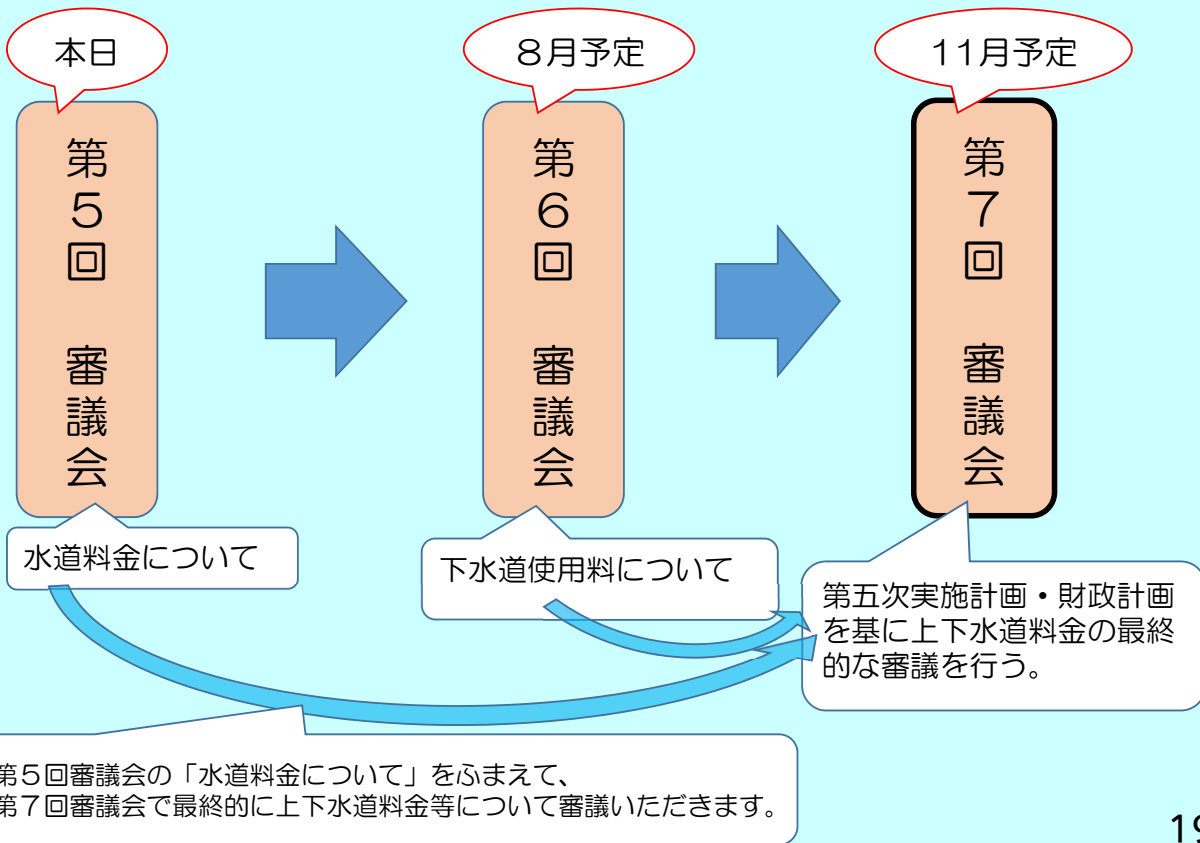


配水管

経過年数が同じでも埋設場所の土壌などの周辺環境によって劣化状況は異なるため、AI診断(R4実施済み)等を行い、管路の健全度を確認。

施設の健全度を把握し、劣化状況によって優先度を決め、更新を行う。

# 上下水道料金の審議について（スケジュール）



## memo

---

---

---

---

---